

# 記 後 集 編

◇『学海』第五号をお届けします。春遅い信州も今年は例年になく早い春を迎えた。それにならったわけではないが、本号の編集作業も早期より開始して、発行を急いだ。しかし、昨年とあまり変わりのない日付けでこの後記を書くことになり、出来上りを待ち遠しく思っていた方々にはお詫び申し上げる。

◇本号は、前号までの頁数をはるかに上回る大部なものとなった。巻頭を飾る矢羽論文は、上田出身の加舎白雄主催『芭蕉翁百回忌誹諧連歌』の翻刻紹介と、その考察。そして、学生の研究論文及び評論・創作は、内容の多様さにおいて、これまでを凌ぐものとなった。藤沢論文「熱帯林を考える」は、最近マスコミを賑わしている世界の森林破壊問題を日常のレベルから追及した現代日本人に対する警告。その他、一々についての紹介は省くが、いずれもそれぞれのテーマに真摯な態度で臨んだ力作である。

◇学生の作品と言えば、多くの候補作が挙がり、選考に苦慮したことを付言しておかなければならない。それは、一方では優秀なものが数多く提出されたことの証左であるが、他方、編集方針の不備を露呈するものもあった。本号における反省を、次号への課題としたい。

平成元年三月三十一日発行

学海 第五号

発行者 上田市下之郷六二〇  
上田女子短期大学

国語国文学会  
会長 中山 渡  
〇二六八(三八)二三五二

印刷所 上田市問屋町二三七一五  
田辺印刷株式会社  
〇二六八(三二)一四九二

題字・塚田 清策